

永原学園地域子育て支援センター

さんこう・ぽぽらだより

令和8年9月発行第232号

認定こども園西九州大学附属 三光保育園

TEL:0952-31-6877

1歳児の心と体

佐賀の今年の夏は、猛暑と雨不足で人にも生き物にも植物にも影響が出ています。園児たちも外遊びができず、水遊びと室内遊びで体を動かしていますが、日ごろに比べると運動量が少なく体を持て余している姿も見られています。

先日、歯医者さんで順番待ちをしていると、保育園でいう1歳児さんがやってきました。ソファを登ったり降りたりの繰返しで、ママの方は周囲の方に気を使い、申し訳なさそうに頭を下げておられました。

しかし、園での1歳児にはよく見られる行動なので面白く観察していると、よじ登る・降りる、四つばいで進む、掴まると、全身を使っていることが分かります。ママが何度も支えようとしても、その手を払いのけて自分で挑む姿に、全身の機能発達において大切なトレーニングなのだあと、改めて思いました。

砂場や遊具を使った日中の遊びはまだ存分に楽しめませんが、運動会に向けてのダンスやお遊戯の練習などを通して全身を使った運動を楽しみたいと思います。ただ、幼児の事故も多く発生していますので、車が通る危険な場所では、手をつないだり見守りをして、安全対策をしましょう。

三光保育園園長

9月と10月の「子育て支援事業」のお知らせ

① 実施日

- ・9月3日(木)分園で遊ぼう※
- ・9月8日(火)分園で遊ぼう※
- ・9月9日(水)分園で遊ぼう※
- ・9月15日(火)ベビーマッサージ講座(先着3組)
- ・9月24日(木)赤ちゃんの日※
- ・9月29日(火)赤ちゃんの日※
- ・10月6日(火)・8日(木)芋ほり体験(両日先着15組)
- ・10月7日(水)東与賀よかよかサークル
(場所:東与賀保健福祉センター2階 大広間)
- ・10月13日(火)環境&癒しの講座(SDGSについてとアロマ)
- ・10月16日(金)分園で遊ぼう※
- ・10月19日(月)分園で遊ぼう※
- ・10月21日(水)高木瀬赤ちゃんサロン(場所:高木瀬公民館)
- ・10月26日(月)赤ちゃんの日※
- ・10月28日(水)赤ちゃんの日※

※分園で遊ぼう・赤ちゃんの日は先着5組です。

※赤ちゃんの日は兄弟児のご参加はご遠慮ください。

② 時間:10時~12時

③ 開催場所:三光保育園分園 PINO

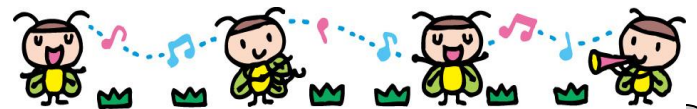
④ 駐車場:三光保育園分園 PINO

⑤ 申し込み方法:「さんこう・ぽぽら」HP 毎月1日10時から

★場所の変更:さんこう・ぽぽらは、10月まで三光保育園分園 PINO 2階で実施しています。静かで穏やかに遊べる施設です。ぜひ、「ぽぽら」へ遊びにきてください。

サロンの日以外に遊びに来られる際は事前のご連絡をお願いします。

TEL:97-5151(三光保育園分園 PINO)



♪育児相談・食育相談をしています♪

三光保育園及び三光幼稚園では、育児・食育相談を受け付けています。お気軽にお申し込み下さい。

※毎月第3火曜日の14時~16時までは、西九州大学短期大学部教員による、食育相談を行っています。事前にお電話でお申し込みの上、ご利用下さい。

(受付時間:平日の9:30~17:00まで)

さんこう・ぽぽら(園庭を含む)開放の時間帯について

※10月までは三光保育園分園 PINOになります。

【開園日】〇月~金(祝祭日・お盆・年末年始を除く)

【時間】〇9:00~12:30、13:30~16:00

※12:30~13:30 昼休み・準備の為閉園

【お知らせ】

※熱中症指数が高い場合は、安全上中止します。

※園行事の為、ご利用できない場合があります。

※出前支援の場合は、担当職員が不在になります。

※サロンの日以外に遊びに来る場合は電話でお問い合わせください。

TEL:97-5151(三光保育園分園 PINO)



「シニアサロンぽぽら」

子育て支援センター「さんこうぽぽら」では、月に1回地域の方にお越し頂き楽しいひと時を過ごしています。

お茶とお菓子を頂きながら、おしゃべりや物づくりを楽しみませんか?

日時:9月17日(木) 敬老の集い(分園 PINO)

10月30日(金) 花の苗植え(三光保育園)

寄稿：西九州大学・西九州大学短期大学部の窓から

子育て便り

「信頼できる大人の存在」

社会福祉学科 江口賀子

子どもたちの成長を見守る中で、「家族以外にも安心して関わられる大人の存在」は、大切だと言われます。社会福祉学の中では、社会的支援ネットワーク（「支えてくれる人や関係性」）とも言われます。

子どもは、おうちの方や保育者との関わりを土台にしながら、少しずつ世界を広げていきます。その中で、親でも先生でもないけれど、自分のことを気にかけてくれる大人がいることは、大きな安心につながります。

たとえば、ふらりと現れては周りの人の気持ちをふっと軽くしてくれるような存在。いつも一緒にいるわけではないけれど、会うとほっとする、話を聞いてもらおうと元気になる—そんな関係が、子どもの心をやさしく支えてくれるのだと思います。

先日、86歳で亡くなった父の初盆に、ひとりの青年がお参りに来てくれました。20歳になったその方は、5歳の頃、地域の公民館での活動で父たちが見守っていた子どもの一人でした。久しぶりの再会でしたが、そのつながりが今も続いていることに、あたたかい気持ちになりました。

子どもにとって、「ここに行けば安心できる」「この人になら話してみたい」と思える場所や人があることは、自分の気持ちを整えたり、新しい一歩を踏み出したりする力になります。家庭や園とはまた少し違う、もうひとつの居場所があることで、心のバランスもとりやすくなるのかもしれない。

地域の中には、近所の方や親戚、習い事の先生など、さまざまな大人がいます。特別なことをしなくても、日々のあいさつやちょっとした会話が、子どもにとっての安心できるつながりになっていくこともあります。私たち大人も、肩の力を抜きながら、ゆるやかにつながっていけたらいいと思います。

子どもたちが「自分はひとりではない」と感じられるような関係が、これからも広がっていくことを願っています。